

海に沈んだ炭鉱 フィールドワーク



刻む会 たより

No.46

2012. 7. 5

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) Tel.0836(二)8003

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01590732405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

追悼碑建立募金

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01370998603

名義 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com> ↑アドレスが新しくなりました

【日時】 8月4日(土)

午前10時～午後1時30分

【場所】 宇部市西岐波ふれあいセンター

【内容】

☆炭鉱についてのお話

☆長生炭鉱の物語

☆韓国の文化を学ぼう！

～韓国の言葉 知っている？～

～一緒に作って食べよう！

おいしい韓国料理～



☆犠牲者のために海辺でお花を供えます

ぜひ、ご参加ください！

二月五日(日)長生炭鉱水没事故七〇周年
犠牲者追悼集会参加者の感想(その二)

【宇部市文化会館】

「海の墓標」を歌って感じたこと

松村高夫さん(東京合唱団テノール)

宇部のホールの舞台裏で、歌う時間が刻々と迫るなかで、韓国からこの慰霊祭(追悼集



「海の墓標」をうたう東京合唱団・山口合唱団の皆さん

会)に來た犠牲者遺族の女性が涙声で水没事故のことを語るのが途切れ途切れ聞こえてくるなかで、ぼくは二つのことを想っていた。

一つの思いは、四五年前のぼくの個人的な体験からきている。ぼくが歴史研究者として最初に書いた論文は、「日本帝国主義下の植民地労働者」と題するもので、朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働を扱ったかなり長い一〇〇頁近いものだった。一九六七年、ぼくが二五歳の時のことである。朴慶植(パク・キョンシク)著『朝鮮人強制連行の歴史』という衝撃的な本が出たのがその二年前であるが、その頃、日本人でこの問題を研究していたのはぼくだけだった。未開拓なテーマの論文だったので、発表後も多少不安を感じていたのだが、当時朝鮮史研究をリードしていた俊才梶村秀樹氏が多くの論文を褒めて下さり、大いに勇気づけられた。その頃は、まさか一九九〇年代になって強制連行が社会問題としてクローズアップされるようになるとは思ってもしなかった。

八〇年代初めの教科書検定を告発する家永三郎教科書訴訟(第三次)で、七三一部隊や強制連行・強制労働や南京虐殺が争点になった。七三一部隊のことではぼくが証言台に立ったのだが、朝鮮人強制連行で証言台に立ったのは池明観先生だった。池先生は朴軍事

政権に抵抗し、命がけでT・K生という匿名で韓国からの極秘情報を岩波新書で出版された方で、「悪魔の飽食」全国合唱団のソウル公演には奥様同伴で来聴され、打ち上げて「この公演は、日韓の本格的な文化交流が始まることを示している」というスピーチをされた。それに続く戦後補償裁判でも朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働は争点の一つであった。ぼくは、最初の論文から四五年経って、この宇部で、「…無理やりにプサンから船で連れてこられた人々。…ピーヤの下に今も眠る一八三人。」と歌い、ナレーションが一八三人、そのうち朝鮮半島から来た人が一三五人(注)。遺体も引き揚げられず、一言の謝罪もされず、異国の海で眠っている。」と入り、さらに「…嗚咽を聞くのは魚だけ、寄ってくるのは魚だけ。…わたしたちの国がかつてアジアで何をしてきたか…」と歌うことになった、ということにぼくの胸は熱くなった。

思いの二つめとは、この長生炭鉱の水没事故は、ぼくが生まれて一カ月も経たないうちに起こっているということである。これは今年の七〇周年慰霊祭(追悼集会)の直前に、ぼくも古稀を迎えたということでもある。水没事故で無念の死を強制された彼らが、遺体のまま海の中に、ちようど今日までぼくが生きてきた時間と同じ時間のあいだ中、置かれ

たままだった、というこの事実。このあまりにも惨い非人間的な事実を前に、ぼくの胸は重くなったのであった。

前出の梶村氏が一九八三年にこの長生炭鉱水没事故の聞き取りを『在日朝鮮人史研究』に載せたことも現地を知った。(梶村氏はこの論文後間もなく若くして亡くなられた。)『証言・資料集(1)アボジは海の底』を読むと、その水没事故については随分調査がすすみ、判明されたことも多い反面、まだまだ分からないことも多いのだな、と思った。

やがて私たち合唱団は舞台に出ていって、歌った。歌詞にはすべてが凝縮されていると改めて思った。歌い終わって、東京合唱団は『海の墓標』を現地の慰霊祭(追悼集会)で歌うという途轍もなく重く意味のあることを実現したのだ、ということを実感した。それを実現するまでには、吉田要先生の編曲、金田まり子先生の熱い指導があり、その上に岩瀬団長と平田さんが先遣隊として現地に行かれ、地元の「刻む会」の方々とコンタクトをとられたことが大きいと思う。そして運営委員会の方たちが、佐賀公演の前日に宇部の現地を訪ねて「刻む会」の方たちとの交流を計画、実現して下さったことも大きかったと思う。

(注)「刻む会」では朝鮮人犠牲者は一三七人としている。

【二二／五／五(土)】

宇部新川まつりで宣伝活動

—親子連れの方々に励まされた—

長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立委員会

藤井和義



立ち止まったご夫婦に説明する藤井さん(左側)

関するパネル展示と、その前に立ち止まって熱心にご覧になっている方々に内容をご説明したり、水没事故への宇部市などの対応等をお伝えしました。

「刻む会」の木村さんが事前の会議に出席されてパネル展示の場所が確保できるように交渉してくださっていたので、今回もいい場所を提供していただきました。ただ、向かい側がイカなどを焼いて販売する露店だったので、終始、「美味しそうな匂い」でお腹が満腹になりましたが・・・。

さて、パネル展示の内容は一九四〇年の長生炭鉱全盛期の鳥瞰図(旧長生駅、強制連行された朝鮮人が収容された朝鮮人寮、石炭積み出し棧橋等々)、長生炭鉱(海底炭鉱)の断面図で水没事故を具体的に表したものの、水没事故から七〇年後の現在の長生炭鉱周辺を上空から見たものなどでした。私たちの展示に関心を示さず、アーケードを楽しそうに通り返ける人たちもいましたが、なかには歩きを止めて、パネルの前に立つ人も少なくありませんでした。

今年の宇部・新川祭りは天候に恵まれたこともあって、例年以上の人出で賑わいました。私は北九州から駆けつけた内岡さんと一緒に、新天町アーケードで『長生炭鉱水没事故』に

今回、印象的だったことは小学校高学年と一緒に親子連れでした。前々から西岐波小、上宇部小の子どもたちが床波海岸のピーヤのある現場で、スケッチや炭鉱の歴史学習を行なっていることは聞いていましたが、それを

経験した子どもたちでしょうか、パネルを熱心に見ていました。その後ろにお母さんが、お父さんが寄り添っていました。「自分の子どもが『社会的・歴史的な出来事』に関心を向けている」という、親として嬉しそうな表情を感じることができました。立ち去る時に募金箱にカンパを入れてくださる親もいました。また、深く入り込むようにパネルを熱心に見てくれていた二人連れの若者、あるいは一人でじっと見ていた若者が、今も目に浮かんできます。

若者や小学生の子どもたちや親御さん、こうした方々の姿が私に現れたものを考えながら、改めて、他民族（朝鮮民族）への加害の歴史から学んだものを「未来につなげる」ために伝えていく、その事を自分のつとめにしていくと思いました。

これからもいろいろな機会を利用して、パネル展示をしようと思います。また、長生炭鉱フィールドワークは少人数でもOKですし、ご要望があれば小・中・高校・公民館等々に出かけてお話をさせていただきます。また、長生炭鉱にとどまらず、宇部の炭鉱の歩み、地底（宇部では海の底）の炭鉱労働の過酷さ、多くの水没事故の経緯やその背景などにも言及いたします。その中から長生炭鉱の「特異性」や韓国の「遺族会や」遺族の思い」を皆

様にお伝えできればと考えます。

また、小学校のお子さん向けの「わかりやすい長生炭鉱の冊子」を事務局で検討して作成してみたいと思います。

このような一面を持つ朝鮮半島の人たちの過去を知り、考え、「心からの友好・平和」をつくっていききたいと思っています。



パネルを熱心に見る西岐波小の子どもさんとお両親

NPO法人国際交流広場無窮花堂友好親善の会・総会
天国の裴来善（ペレソン）さんの激励の
声が、聞こえてくるようでした

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

内岡 貞雄

1. 総会（納骨堂完成後も経費が…）

五月二〇日（日）にムグンファ堂友好親善の会総会（第六回）があり、団体会員の「刻む会」から出席しました。過去にも「ムグンファの会」理事長の故裴来善さんを、「刻む会」の島さんと「刻む会」にいろいろご奉仕くださった故裴基秀（ベ・キス）さんのお二人が何度か訪問されています。

飯塚労働会館四Fの会場は五〇人ほどの出席者で埋まりました。年間の予算規模は百二十万円ほどで、一二年前に建立した無窮花堂の修復（腐食防止）、あるいは「歴史回廊」英語版説明文の作成という事業計画が報告され、納骨堂完成後の維持費内訳やどんな新事業が加わっていくのかがわかりました。

一二年前の二〇〇〇年十一月一〇日（金）、「刻む会」から山口代表、澄田、戸井、大野の四人、宇部市役所から総務部矢富部長と健康福祉部古林信義部長以下数人が飯塚市役所と飯塚霊園を訪問しました。飯塚市役所

では、霊園の約一〇〇坪を「飯塚霊園国際交流広場」として市が造成を担当したこと、他方、納骨堂や碑文・歴史回廊などは建立実行委員会がすべて費用を負担し、完成後は、その維持・管理を責任を持って行なうという取り決めがされたことが報告されました。

参加した宇部市役所の職員からは、①地域住民の認識や理解を得て、どういう時期にコンセンサスが出来たと判断されたか。②市議会での反響について。③国際交流課の有無、等々について質問がありました。

なお二〇〇〇年一月、韓国の遺族が宇部市役所訪問の折、「刻む会」から江頭川（えがしらがわ）河口の市有地が「追悼碑建立」の場所として使用できないかと要求しましたが、「そこは、『海岸道路代替地』として国から移譲されたところなので、今のところは、『追悼碑建立』のために使用させることは出来ない」という回答でした。

2. 裴来善（ペ・レソン）さん曰く、

『二一世紀のために何をなすべきか！追悼碑建立は宇部市とねばり強い話し合いが大切です！』

「刻む会」の山口代表ほか三人は、二〇〇〇年十一月一日の夕刻に裴来善（ペ・レソン）さんからホテルで四〇分ほどお話をうかがい

ました。

「やがて二か月足らずで二〇世紀が終わりま

す。宇部でも、『刻む会』と市の間で話し合うことが大切です。一九四二年二月三日に二百人近い人命が失われて、今なお放置されたままであるというのは、絶対いけないことです。二〇世紀の終わりの二ヶ月足らずの期間中でも宇部市に働きかけて、『二一世紀のために何をなすべきか』を問いながら、積極的に新世紀のために働かなくてはなりません。私たちの納骨堂の建物は一千万円、次に第二段階としてレリーフを造る予定です。

宇部でも位牌を置いておくものを建てる必要があります。飯塚の工事業業者は、宇部のために仕事をすると言ってくれています。『刻む会』でも行政に強く働きかけ、今世紀中にその土台を築いておくことが大事です。」

宇部と飯塚では異なる諸事情がありますが、「ムグンファ堂」建立は、私たち「刻む会」を元気づけてくれる目標となっています。

3. 記念講演「亡き父を初めて語る」

息子の裴雅彦（ペ・アオン）さん

総会後、裴来善（ペ・レソン）さんの息子さん・裴雅彦（ペ・アオン）さんが父を語りました。裴雅彦さんは一九五七年、筑豊の鞍手郡に生まれた在日コリアン二世で、その後すぐに

穂波町（現飯塚市）に移り住みました。幼い時は極貧の生活で、「自分のところはなぜこんなに貧しいんだ、なぜアボジはあんなに厳しいんだ」ということしか記憶にありませんでした。裴雅彦さんは朝鮮小・中級学校、朝鮮高級学校、朝鮮大学校を経て、一九八三年（二五歳）の時に先輩の誘いでパチンコ業界に入りました。いやいや入った業界でしたが、その後の二五年間は取締役にもなつて、それなりに一生懸命勤めました。在日コリアン一世のアボジ



前列左から4人目が息子さんの裴雅彦（ペ・アオン）さん

は、一九二一年に韓国の全羅南道に生まれ、日本の植民地時代、二度の強制連行を体験、筑豊の炭鉱で強制労働させられました。

戦後は飯塚市でホルモンの行商をしながら四人の息子を育てました。「無口で意見をさむことを許さない。封建制を絵に描いたようなアボジでした」。七〇歳頃に肺気胸を患って入院中に、筑豊で亡くなった同胞の遺骨収集をしていることを知りました。退院後、アボジは筑豊の二〇〇力以上の寺を回って遺骨を収集し、身元が分かれば韓国の遺族に連絡をしました。当初、私は「遺骨収集などは国や組織がやることで個人ではどうにもならない」と冷めた目で飯塚から離れた福岡でアボジの活動を見ていました。

二〇〇七年三月、アボジから電話があり、「一緒に病院について来てくれ」と頼まれました。病院の先生から父の悪性リンパ腫を告げられ、しかも余命は数か月と宣告されました。

アボジは手帳を前に、「先生、わたしや、今、死ねないんです。見て下さい、こんなにスケジュールがびつしりなんです。せめて三年はなんとかありませんか！」と医者に詰め寄りました。

その時、息子の裴雅彦さんは、八〇歳の半ばを過ぎて、なお、こんなにも必要とされて

いる父をはじめて知りました。こんなにも使命感を持つて生きようとしている父をはじめて知ったのです。おそらく父は、兄弟家族と一緒に暮らしてこそ本当の幸せを感じられると、過ぎ去った出来事を胸に秘めて、そう確信していたのだと思います。翌二〇〇八年六月の父の葬儀には信じられないくらい多くの方々が参列してくださり、アボジは本当に多くの在日コリアン、日本人の皆さんに支えられていたんだ、仲間たちの支援が『無窮花堂』を完成させてくれたんだと心から思いました。

戦争に、植民地支配の日本国に翻弄されてきた父は、日本政府には憎しみも残っていたようでしたが、「自分にかかわってくれたすべての人、すべての組織に感謝していると最後に言い残しました」。

私は「父の命を懸けた活動」を知って以後、『自分の生き方を変えてみよう』と思つて一年後にパチンコ業界を退職しました。今、お年寄りの介護をする介護士養成の会社を飯塚に立ち上げました。

アボジとの思い出は「頑固一徹できびしかったことしか」浮かびませんが、それでも二〇〇九年の父の一周忌の時に小三の想い出を詩・「空色の自転車」という題に綴ってみました。（それはざっとこんな内容だったと思います。）

小三の時、近所では自転車が流行っていましたが、うちは貧乏なので「自転車を買って」とはとも言えませんでした。

じつとガマンしていました、ある朝、玄関口に「空色の自転車」が立て掛けてありました。

ボロイ空色の、見るからに安っぽい中古の自転車でしたが、ぼくは嬉しくてうれしくて、自転車を乗り回しました。

ある時、友だちと競争して、坂道をスピードを出して下りていたら、ブレーキをかけ損ねて木の塀にぶつかつてしまい、自転車が壊れてしまいました。

ぼくはその晩、父が怖くて家に入れずに玄関横にずーっと隠れていました。

やがて母がぼくを家の中に呼び入れました。

父は黙っていました。

翌朝、目を覚ますと父が徹夜で修理した自転車が玄関に立て掛けてありました。

ぼくは本当にうれしくなりました。

ぼくは「空色の自転車」が本当に好きでした。

その自転車に乗れるようにしてくれたアボジは最高でした。

ぼくはこの「空色の自転車」を誇りに思い、父を誇りに思っています。

すばらしい詩だと思いました。

歌の力——「二つのレクイエム」に参加して

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

小畑太作

二〇一二年四月三〇日(月・休)、東京都大田区のアプリコホール(大田区民ホール)で、『悪魔の飽食』をうたう東京合唱団がコンサートを開催する、しかも長生炭鉱水没事故をうたった「海の墓標」を演奏するというので「刻む会」を代表して私と木岡靖司さんの二人で馳せ参じることとしました。

東京合唱団との出会いは、遡ること約一年半前のこと、団長の岩瀬三郎さんからの一本の電話から始まりました。電話は「かねてから歌いたいと願っていた『海の墓標』をいよいよ歌うことにした。ついでには現地を訪ねたいが案内を頼めないか」というものでした。当方としても、運動の広げ方はもとより七〇周年犠牲者追悼集会をどのように迎えるかを考えあぐねていたところ。二つの流れは合流し調和し、その後、二度に亘る宇部への来訪(その内一回は団員三〇名程が来てくれた)を経て、七〇周年犠牲者追悼集会において染み渡る演奏を披露して下さったことはご承知の通りです。実はそれらの殆ど全てが合唱団員ご自身の手弁当によるものでした。

先ず一つには、交流を深めること、そしてこの度のコンサートを是非とも応援したいと願う東京へと赴いたのです。しかし、訪問には今ひとつの目的がありました。それは合唱団のご配慮によって、追悼碑建立のための募金活動を行えるということがあったのです。

当日は、午前中から木岡さんのご尽力で長生炭鉱水没事故の展示物が搬入され、私が会場に到着したのはお昼前、地元ボランティアの方々による会場準備がほぼ終わりがけの所でした。到着した途端、ボランティアの一人に、何者かと尋ねられたので「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の者だと応じたところ、予想に反して返ってきたのは「何それ?」という感じの反応。それが、想像以上に長生炭鉱のことが知られていないことの現れであることを、私自身が漸く理解したのはコンサートの終了時でした。

第一部の「悪魔の飽食」が終わり、休憩時間にロビーにて行った、募金活動、ポストカード販売、パネル展示、どれも反応はあまり芳しくありませんでした。直ぐ隣でCD等が次々と売れているのを眺めていると、正直に言ってきたことを少し後悔さえたのです。その様子を見てか、合唱団事務局長の平田 啓さんから、コンサート終了時には出口を一つにするのでそこで募金活動を、との配慮に満ち



蒲田ホールで歌う東京合唱団
ステージにはピーヤの舞台セットがありました

た言葉を頂いた時も、内心ではどっちでもいいというようなところがありました。

休憩が終わり、第二部が開会。用意して下さっていた招待者席に木岡さんと着きました。「海の墓標」の合唱を聴きながら、自分の中では、色々な想いが交錯していました。故郷のこと、かつて東京に住んでいたこと、今は宇部に住むこととなり長生炭鉱と出会ったこと、そして何とか都合を付けてやって来た東京…。会場を埋め尽くす二二〇〇名程の人々も、きつと色々な思いを巡らしたことでしょう。そ

して、悲しい合唱に重ねてソプラノでアリアンのやさしい歌声が聞こえてきた時、七〇年もの間、暗い海の底で故郷を思い続ける犠牲者達の想いに少しだけ触れた気がしたのでした。

合唱が終わり、岩瀬さんが私達二人を会場に紹介して下さった時の、万雷の拍手は東京合唱団のその歌が人々を変えてしまっているのだと思わされました。終了後、私達二人は、会場の出口とロビーで募金活動をしました。改めて大きめの募金箱を用意したのですが、伸ばされる手の数に追いつけない有り様でした。

コンサートは、東京の沢山の人々が長生炭鉱のことを知って思いを傾け始めて下さる機会となりました。その様な機会を設けて下さった『悪魔の飽食』をうたう東京合唱団に心より感謝申し上げます。しかしそれは同時に、本当に私達は「知らせること」にどのくらい誠実であったのかを反省させられる機会でもありました。追悼碑に関しては最早、時間との闘いとなりました。しかし、歴史に刻む歩みはまだまだこれからです。一人ひとりに折りが良くても悪くても、宣べ伝えていきたいと思えます。そして皆様、一人ひとりのご協力を切に願うものです。

長生炭鉱水没事故犠牲者のご遺族が来宇

― 訪ねてきてよかった ―

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

内岡貞雄

【位牌を手に・・・】

六月二十八日(木)、犠牲者(福井道文さん)のお孫さんにあたる京都在住の藤井潔さんと娘さんの歩美さん(曾孫)が、床波向坂の西光寺を訪ねました。位牌を安置する桐箱を



京都から来られた藤井潔(孫)さんと歩美さん(曾孫) 父子

開けると、一番上に福井道文(権道文)さんの位牌が、その三段下に道文さんの実兄・福井五文(権五文)さんの位牌がありました。『福井』という日本名に間違いありません」と、潔さんは道文さんの位牌を、歩美さんは五文さんの位牌を握りしめました。「母(道文さんの娘さん)が西岐波小三年の時に水没事故が起こっていますからもう七〇年経ちますが、私にとつてこの事故はそんなに遠い出来事ではありません」。幼い頃、母に連れられて床波を訪れたり、また折に触れて、母から長生炭鉱のことをよく聞いていたということです。

事故直後、西岐波小の先生が自宅を訪ねてきて、母と一緒に泣いてくれたそうです。「あのやさしかった先生のことは忘れない」と母は話してくれました。

【七〇年前、放棄された坑口跡で】

西光寺を後に、炭住跡や旧長生駅、男たちの碑・本坑口跡などを歩いて回りました。雑草が生い茂る坑口跡で、二人は崩壊してしまつた坑口をじつと見つめていました。

「水没事故の日、弟の道文は一度この坑口まで出てきたのですが、兄の五文がまだ坑道に残っていることを知るやいなや、再び坑道内に入っていました。祖父はそれっきり帰ってきませんでした」。車中で話しておられた潔

さんの話を思い起こしました。

【ピーヤに献花して】

海岸は大潮のため、岸のピーヤは数メートルが海水に沈んでいましたが、梅雨期の晴れのお天気でさわやかな風が吹いていました。沖のピーヤからおよそ七〇メートル付近で“海がほけ”、水没事故が起きました。「海底炭鉱だから水が出るのは当たり前だと思えますが、それにしても“水非常”につながるほどの出水が二か月も前からあったということですので、もっと丁寧な安全対策をやるべきだったと思います。結局のところ、韓国・朝鮮の人たちを人間扱いしていなかったのかもしれないですね」と歩美さん。これから司法試験にチャレンジし、弁護士を目指そうとしている歩美さんの表情が引き締まりました。

「和歌山の叔母さんが一緒だったら、喜んだだろうなあ」、潔さんがつぶやいていました。

【刻む会との懇親会】

西光寺訪問と長生炭鉱フィールドワークに出かける前、藤井さん父娘と「刻む会」の山口代表を含め八人の方で懇談の時を持ちました。山口代表が教員時代、長生炭鉱社宅に住む受け持ちの生徒の家庭訪問をしたこと、

追悼碑建立が来年二月上旬に竣工すること、韓国遺族会の全錫虎(チョンソツコ)さんが事故当時、西岐波小五年生であったことなど話題になりました。

「日本人のお亡くなりになった方々以外に韓国・朝鮮の方々の追悼碑を建てることで、何か嫌味を言われたことはありませんか」と歩美さんが質問されました。日本社会で暮らす彼女が、在日コリアンに対する風当たりを日常的に体験していることからの問いであったのでしょう。「刻む会」のある方は、ご自分の成育歴を述べつつ、「刻む会」にかかわるようになった経緯を話されました。

私たち「刻む会」は藤井さん父娘から感謝されましたが、それはむしろ逆で、私たちが在日コリアンや朝鮮半島の人々に対して「あるべき姿勢」を気づかされていることを感謝しなくてはならないのではないかと思います。



「刻む会」活動目録(前回「たより」以降)

- ▽二月二八日(火) 県庁国際交流課との話し合い
- ▽三月 九日(金) 事務局会議
- ▽三月一六日(金) 田川市石炭歴史博物館フィールドワーク受け入れ
- ▽三月二九日(木) 宇部市との協議
- ▽三月三一日(土) 春のフィールドワーク
- ▽四月一九日(木) 事務局会議
- ▽四月二六日(木) 宇部市との協議
- ▽四月三〇日(月) 「海の墓標」蒲田公演
- ▽五月二一日(金) カンパピール事務局会議
- ▽五月二〇日(日) ムグンファ堂友好親善の会総会参加
- ▽六月一九日(火) 事務局会議
- ▽六月二三日(土) 第二回床波住民説明会
- ▽六月二八日(木) 犠牲者遺族(四世)訪問

【春のフィールドワーク報告】

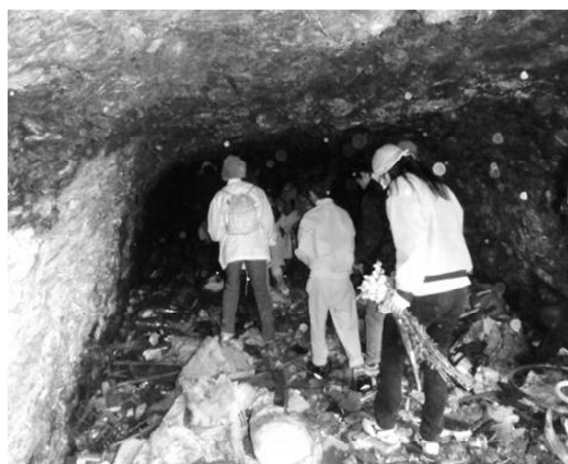
山内弘恵

今年度初めての取り組みとして、春休みの時期に、小中学生でも気軽に参加できるように春のフィールドワークを企画した。

夏のフィールドワークは暑い時期なので、長生炭鉱の跡地をじっくり歩くことができないが、春の気候の良い時期に、ぜひとも跡地をたどり、理解を深めてほしいというのがねらいであった。子どもたちにも楽しく気軽に



新浦炭鉱の説明



洞窟探検

(当時防空壕にしていた場所だったらしい)

参加してもらえよう、ポイントを決めてコースで話を聞いたら、地図にシールを貼るという形式を考えた。

当日は、雨は大丈夫だったが、あいにくの強風で話を聞くのも厳しい感じだった。しかし、参加者は、各ポイントで熱心に話を聞き、当時の様子に思いをはせていた。

ポイントシールは主に当時の写真を縮小したものだった。後で地図を見ながら話しの内容を思い出すのにも有効だと思う。これが、参加者に好評で、大人も子供も楽しんでもらえたようだった。

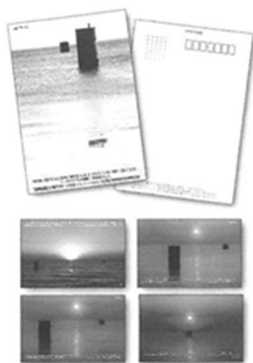
今回のフィールドワークには、四〇名を超

える参加者があった。中には小学校の先生が生徒を誘って来られていたり、かつて炭住に住んでおられた方の参加もあった。これまでの、夏休みを利用した室内型の学習会と違い、体を使って歩き、目で見て学習することで、参加者の意識に深く焼き付けることができた。さらに、参加者より当時の長生炭鉱の貴重な情報の提供があるなど、事実調査の面でも多大な成果を上げることが出来た。市民と共に歴史に刻んでいくためにも、今後も、春のフィールドワークを定着させていきたい。

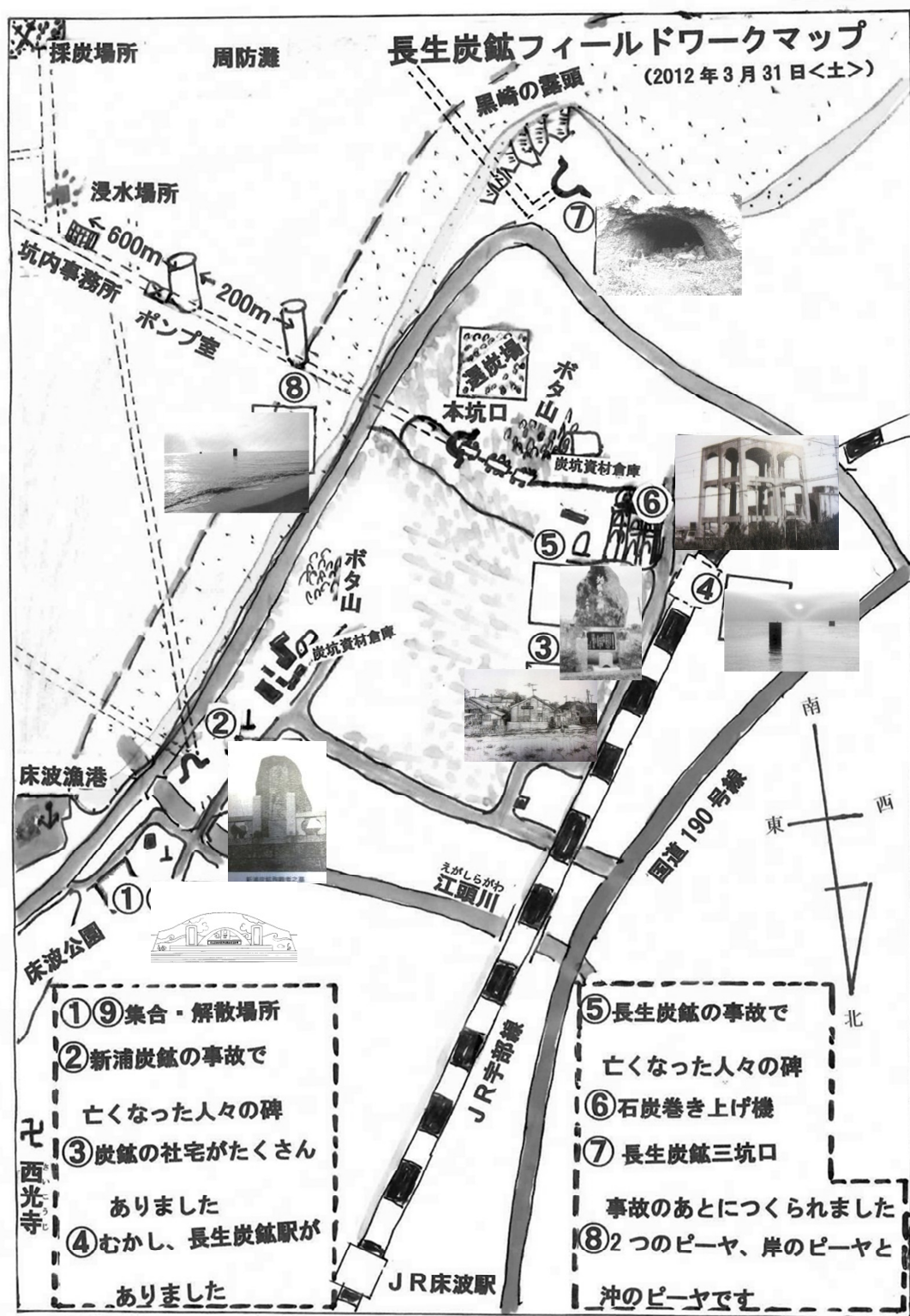
「オリジナルポストカード」

本日発売開始 頒価200円(5枚セット)
地元写真家等によるピーヤの写真絵が
がき。カラー4種、モノクロ1種。
売上は「追悼碑建立」のために全額用
いられます。

お問合せは事務局まで



フィールドワークに使用した地図



「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」会計報告 (2012年3月1日～5月31日)

(円)

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
カンパ	807,057	6,436,467		事務費	84,855	274,995	募金パンフ
物販	198,100	246,600		委員会費	0	7,140	
雑収入	0	9,026		土地管理費	0	1,195	
コンサート	0	769,037		雑支出	6,500	47,540	振替手数料
借入金	0	4,850,000		建立費	0	7,639,130	
積立金	0	1,430,000		繰出金	0	14,870	
				税金	0	227,485	
				小計	91,355	8,212,355	
				残高	913,802	5,528,775	
合計	1,005,157	13,741,130		合計	1,005,157	13,741,130	

(個人) 愛甲哲郎 浅野直人 足立こずえ 飯田 健(2) 出田紀久子 今関一夫
井町洋子 内岡貞雄 大塚正幸 大友孝子 大友陽子 小笠原恵子
岡田淳子 岡田美代子 兼崎 暉 神谷顕史 韓 孝子 杵渕智子
金順子 木村サチ子 木村郁恵 小暮房子 佐藤セツ子 佐藤坤子
芝 貞幸 柴田彌生子 島 香美 徐 澄子 鈴木忠実 田崎敏孝
田中正美 田中富美江 田村尚子 丹野英機 富樫康雄 徳永實藏
戸島 昭 難波郁江 西村正夫 西村 望 野村孝子 萩生光則
長谷川京子 秦 圭子 花田克己 林 幸子 裴東録 萬代聰子
日向孝子 藤井和義(2) 牧角雅子 正木峯夫 松井竹子 松田一夫
三木豊子 村田勝枝 村山喜久子 安森博之 矢田松夫 柳井 武
矢野恭子 山県順子 山口武信 山田健一 遊佐 勉 油谷敬一
油谷重雄 渡部通英

(団体) 田川市石炭・歴史博物館 日朝協会山口県支部 厚南手話会おむすび
宇部緑橋教会有志 宇部緑橋教会女性有志 宇部緑橋教会女性の会

その他匿名など 22 件

(名前の後の数字は回数)

以上、感謝をもってご報告します。

募金目標額 1,320 万円
現在募金額約 820 万円
建立費 450 万円 / 土地代 (磐地費含) 770 万円 / 諸経費 100 万円
物販含

残り 500 万円

【郵便払込口座】

長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金 01370-9-98603

2012 年 6 月 20 日現在